

今月の断酒表彰

☆ H・Kさん 南千里支部 断酒十八年

☆ O・Tさん 吹田支部 断酒二十二年

断酒表彰おめでとうございます。

ますますのご活躍を期待いたします。

断酒に思う (81)

「初心忘れず」を自戒に

吹田支部 O・T

家族と仲間のお陰で断酒 22 年が経過した。速いといえれば速い。最近、自分の体験談が近況報告に傾き、生々しい体験談が出来なくなっているのではと自責にかられている。仕事と倫理観の問題から特に女性問題について言えなくなっている。

僕のアルコールはアルコール関連問題のウェイトが大きく、身体反応の幻聴、幻覚、肝臓障害でなく、精神的疾患が進行していて、家族関係、友人関係、職場の人間関係が破綻していた。

「あきれ」=あまりの意外さやひどさに茫然とする(言泉)。飲み屋のママも「あきれた」眼で僕をみていた、と思う。その飲み屋を脱け出して近くの空地に咲いていたランを手折って店に持ち込み「花盗人はぬすつとと違う」とうそぶき、むしろ粋なことをした位に思っていた。その時、ママの眼が「あきれはてた」と言っていた。

妻や息子はもっと厳しい視線だった。刺すような視線。会話は不成立。一方通行。返事なし。無視。面白くないから、また酒。

とうとう離婚の言葉が妻からでた。僕は土下座はしなかったけれど、もう一度チャンスをくれと伝えた。後で知るが、別れた後のアパートやマンションも捜していたようで、離婚しないと伝えたら約束が違うと妻は息子からなじられたそう。家族は現実を見据えていたが、僕はファンタジーの世界で、酒に逃げていた。

その頃の妻の動きはこれも後で知るのだが、大阪市内や京都など、女性だけのミーティングを求めて「アルコール依存症」とその関連の様々な問題を学習していたようだ。

自分は新阿武山クリニックを受診し「依存症です」と平野先生に言われたが、まだ否認があった。しかし、紹介状を持たされてイヤイヤ通い始めた断酒会。それでも、酒を止めた親切な先輩仲間がいたから、自分もと思った。お手本だった。あの人達のように家族や仕事や人生観を明るくしたいと思った。新鮮な感動があった。「初心忘れず」を自戒としたい。



平成 29 年 9 月 1 日発行 No.175

編集・発行 事務局・広報部

<http://suitashi-danshukai.net>

【今月の「指針と規範」】

断酒会規範三

断酒会員は姓名を名乗ることを原則とする

われわれが断酒会員であることを名乗る最大の理由は、それが自分の断酒にとって有利であることに外ならない。

われわれは、自分がアルコール依存症になっていることをやっと認めた。断酒会に入会することで、アルコール依存症が恥ずかしい病気でないことも知った。そして、原則通り自分の名前を名乗っているが、断酒会内部にのみとどめている人が意外に多い。

恥ずかしい病気ではないと思いながら、社会のこの病気に対する誤解が怖ろしいことと、まだまだ自分の内部にこの病気に対する否定的な気持が潜在しているからであろう。姓名を名乗るといふ断酒会の原則は、誰にでもこの事実を率直に告げるということであるので、勇気を出して断酒の意思表示を広く社会にしよう。

そうすることで、われわれの意識の中にずっと持ち続けていた劣等感が徐々に薄れ、断酒意欲の向上にもつながる。また、社会一般の人たちにとっても、明るく堂々と姓名を名乗っている断酒会員に接することで、従来の間違った認識に疑いを持つようになる。

また、社会に意思表示したことでわれわれは、自分の言ったことに責任を持つようになり、自分の断酒姿勢をますます正すことになる。虚栄心の強い人は、そうした断酒の妨げになるものを捨てることができる。

酒に悩んでいる地域の人たちに断酒の喜びを伝えることが、われわれの責任であり使命でもあるが、こうしたことも姓名を名乗らないことにはわれわれの存在を知ってもらえない。逆に考えると、匿名でないことが酒害相談を怠けられない原因になり、ますますこの活動に積極的になれる。

酒害相談活動や教宣活動を通して学んだことが、われわれの断酒の糧になっていることは誰にも否定できないが、そうした環境づくりのためにも、姓名を名乗ることは大きな役割を果たす。

またわが国では、酒は冠婚葬祭等の儀式には欠かせないものであり、また、人間関係を円滑にするためあらゆる機会を捉えて酒席が設けられる。そして、そこに出席することが半ば義務化している。

われわれはそうした場所に出ることを極力避ける必要があるが、止むを得ず出席した場合、断酒会員であることを明確にしなければ、断り切れずに失敗することすらある。健康上の理由で断っても、少しぐらいならからだによい、と強要されるのが普通である。わが国の飲酒文化は、いかに上手に相手に酒をすすめるか、

ということを重視しているからである。

そんなとき、断酒会員であることを告げ、断酒の意思をきちんと示せば、まず強要されることはない。自らを酒害者だと認めて断酒会に入会した人間に、その組織のルールを破ってまで飲めといえる人間はいないのである。

有言実行という言葉が断酒会ではよく使われる。自分の意思を具体的な言葉に変え、それを行動に移すことが、酒害者がアルコール依存症から回復するために大きな効果がある。その最初にあるものが姓名を名乗ることである。

有言実行という言葉が断酒会ではよく使われる。自分の意思を具体的な言葉に変え、それを行動に移すことが、酒害者がアルコール依存症から回復するために大きな効果がある。その最初にあるものが姓名を名乗ることである。

姓名を名乗ることで断酒が不利になる場合は、匿名も許される。われわれにとって一番大切なことは断酒であり、それを永続きさせることであるからだ。

女性酒害者に対する社会の誤解、差別は、男性酒害者に比べると各段にひどい。「女だてらに、母親たるべき者が」という軽蔑の目で見られている。深く理解しているはずの家族でも、そうした風潮に勝てない場合もある。

従って、当人が姓名を名乗る意思があっても、夫や子供に止められることがある。そうした反対を突き破ってまで名乗れない場合、外に向っての意思表示をしなくてもよい。意見対立で家族同士が不仲になると、断酒まで不利になるからである。名乗ってもよい時期がくるのを待てばよいのである。

男性会員でもアルコール依存症をまったく理解していない職場にいと、断酒会員であることを告げることで、様々な差別を受けることが稀にある。断酒している当人の姿勢によってはこの差別の壁は打ち破れるが、断酒初期にはそうした毅然とした態度をとれない人もいる。そのときがきたら意思表示をしてもらいたい。

アルコール依存症という病気に、自分自身の偏見が捨てられず、恥ずかしいという理由だけで匿名にこだわる会員もいるにはいる。その恥ずかしさを乗り越えられないことが、再飲酒を招くことにもなりかねない。

しかし、断酒会は自由で強制はないので、無理に名乗れとはいえない。断酒が継続されれば病気の認識も変わる。劣等感から早く脱けてほしいものである。

(指針と規範 P54～P58)



みんなの広場

世の動き 遅れとらじと 活字追う
来た聴けた 前橋汀子のGエア―
二番目の 加害者は本土と 沖縄の子
手術あと ごめんごめんと なでさする

吹田支部
O・T

〈みんなの広場〉では会員家族のみなさんからの投稿を掲載していきます。

近況報告、趣味の披露、読書感想、映画・ビデオ鑑賞の印象、会へのご意見等々、発表形式は、散文、短歌、俳句、川柳、漫画、イラストなんでも結構です。奮って応募して下さい（広報部）